

## 群馬・朝鮮人追悼碑 撤去に宗教者ら抗議

今年1月、群馬県高崎市の県立公園「群馬の森」にある朝鮮半島労働者追悼碑を県が撤去したことに抗議する声明が3月13日、平和をつくり出す宗教者ネットらにより発表された。15日には、小野文瑠・群馬諸宗教者の集い代表が県知事あてに同声明を提出した。

追悼碑は2004年に県議会です承され、県内

の市民団体が建立。労務動員された朝鮮人労働者を供養し、アジアの平和と友好を願い、レリーフには「記憶 反省 そして友好」と刻まれている。

追悼碑を巡っては、追悼集会で政治的発言があったことや政治的行事に利用されたこと、右翼団体と小競り合いがあり紛争の元になっていることを理由として、県が2014年に碑設置期間の更新をしない旨を決定。県は「追悼碑を守る会」に

自主的撤去を求め、同会は裁判に訴えたが、2022年に最高裁が上告を棄却し、県の主張を認め、高裁判決が確定した。

声明文では、「この碑に込められた私たちの思いを次の世代に引き継ぎ、さらなるアジアの平和と友好の発展を願う」との碑文を引用し、碑文の趣旨は「アジア・太平洋戦争を止められなかった宗教者の懺悔の憶いに共通する」とし、追悼碑の再建を山本一太知事に要請するとしている。